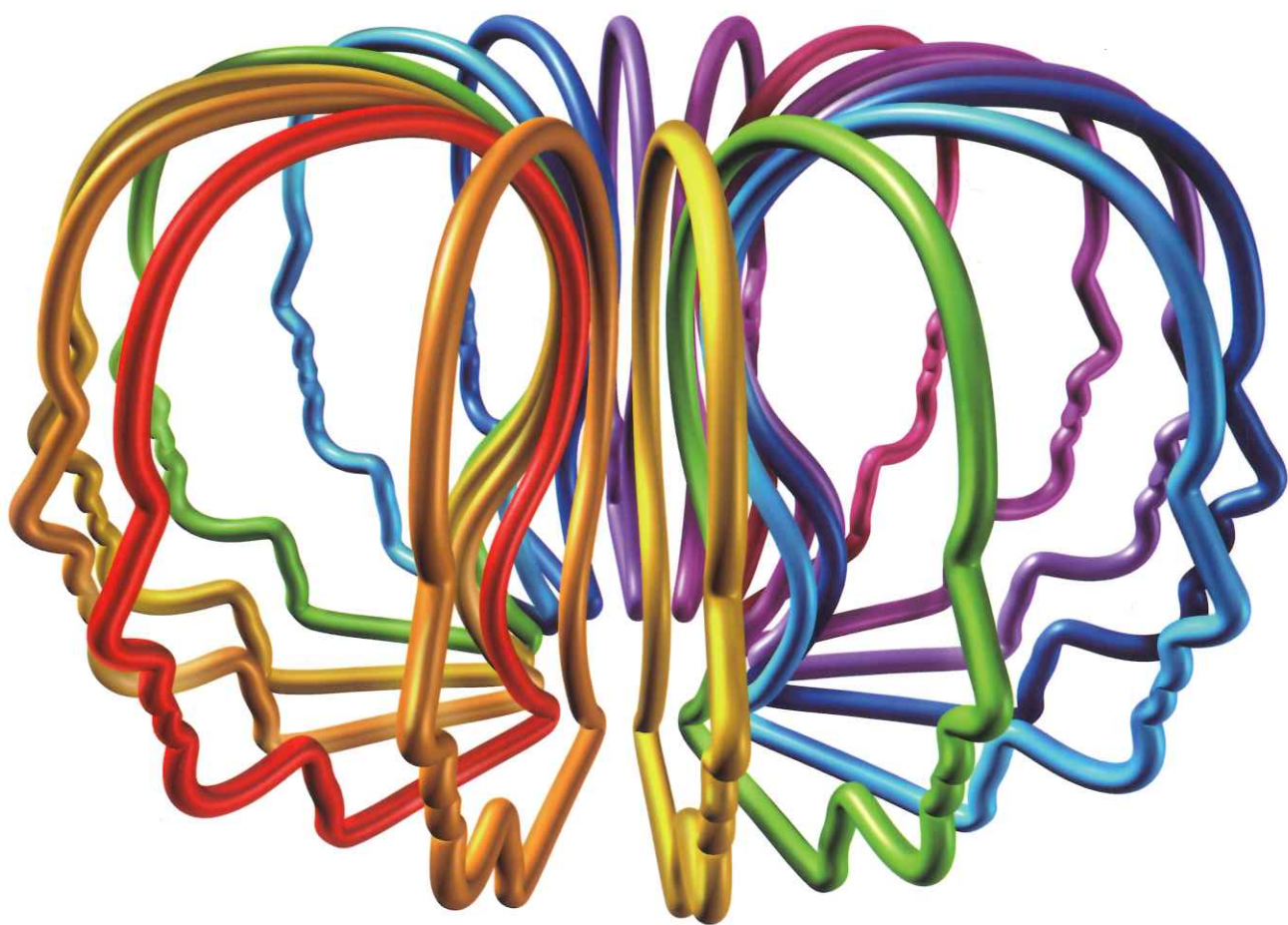


# フォーミュラリー

—エビデンスと経済性に基づいた薬剤選択—

フォーミュラリー編集委員会編

増原慶壮 / 川上純一 / 岩月進 / 前田幹広 / 上田彩



薬事日報社

# フォーミュラリー -エビデンスと経済合理性に基づいた薬剤選択- 発刊によせて

聖マリアンナ医科大学理事長 あかしかつや 明石勝也

わが国が直面している最大の問題は人口減少と高齢者人口の増加であろう。これらは社会保障制度の持続可能性を脅かしている。とくに給付と負担のバランスが崩れてきている医療制度の改革は喫緊の課題で、総額40兆円を超え、毎年数千億円～1兆円程度増え続けると言われている医療費を、どう削減し公平配分していくかは医療者も含め国民全体で考えなくてはならない問題だと思う。

国の施策レベルでもそういった課題を解決しようと様々な改革案が進行している。本書のメインテーマである「フォーミュラリー」もその改革の一翼を担うものだと確信する。聖マリアンナ医科大学病院では、法人としての目標に「フォーミュラリーによる合理的及び経済的な医療の提供」を掲げて、フォーミュラリーの導入は医師または薬剤師が標準薬物治療を行うための指針であると考え、いち早くフォーミュラリーに取り組んできた。フォーミュラリー自体は欧米で先行するが、当院はそれがわが国の医療にどう馴染むか、言わば「日本版のフォーミュラリー」を追求し、実践してきたと自負している。詳細は本編執筆寄稿陣の論に譲るとして、フォーミュラリーの考え方が病院のみに留まらず、地域で広く活用されることを望む。

いまわが国を悩ます医療課題は、なにごとにも従来の枠組みでは対応ができなくなってきているのではなかろうか。本書冒頭の座談会で、有賀徹氏が発言されているように、まさに「医療者の意識改革、行動変容が求められてきている」のだと思う。フォーミュラリーは医薬品費の適正配分につながる薬剤選択の手法ではあるが、広義にはこれからの医療を考えるための新しい「枠組み」としても読んでいただきたいと考えている。